

令和8年6月23日
第7回 リニアまちづくり推進幹事会議

橋本駅南口地区のまちづくりにおける 公共空間の活用について

都市建設局
リニアまちづくり課

橋本駅南口地区のまちづくりにおける 公共空間の活用について

I

事案概要、審議事項等について

II

公共空間の検討状況等について

III

検討の進め方について

IV

今後のスケジュール

(1) 事案概要

駅前の公共空間については、交通結節点となる交通広場の整備に向けた取組を進めるとともに、更なる魅力向上に向け、まちの利便性向上や賑わい創出に資する地下空間の活用について検討を進めている。

加えて、リニア中央新幹線については、当初計画した2027年の開業が難しく、見通しが示されていない状況にある。



公共空間の活用について地下空間を含めた、より詳細な検討を行うもの

(2) 審議事項

- 公共空間の活用について地下空間を含めた詳細な検討の実施
- 検討に係る調査委託の実施

(1) 駅前の公共空間（交通広場）への導入機能（現時点案）

【リニア駅周辺まちづくりガイドラインに基づく公共空間(交通広場)の導入機能の検討状況】

機能	内容
路線バス	乗車(6バース)、降車(3バース)、待機(4バース)
タクシー	タクシープール(24台)、タクシー乗車場(2台分)、降車場(1台分)
一般車乗降場	17台分(福祉車両 1台分含む)
高速バス	交通広場内に3バース ※拡張可能性等について検討中
歩行者空間	在来線とリニア駅を繋ぐ歩行者空間などを整備予定



これらの導入機能に加え、
公共空間の活用について地下空間を含めた詳細な検討を実施する。

(2) 地下空間を活用する効果

- ・ リニア駅と繋がる地下駐車場、駅間を結ぶ地下通路、災害時の地下の避難場所など新たな機能を地下に配置することで 施設の整備効果が高まる。
- ・ 市が先行して 地下空間を整備することで、民間開発における地下開発の促進に繋がる。
- ・ 駅との接続や 天候に左右されない歩行者ネットワークが 形成できる。
- ・ 地上で整備を計画している公共施設(機能)を 地下へ配置することにより、駅前の限られた宅地を効率的に活用でき、景観の向上も図られる。

【参考イメージ】



「地下に通路・駐車場を設けたイメージ」

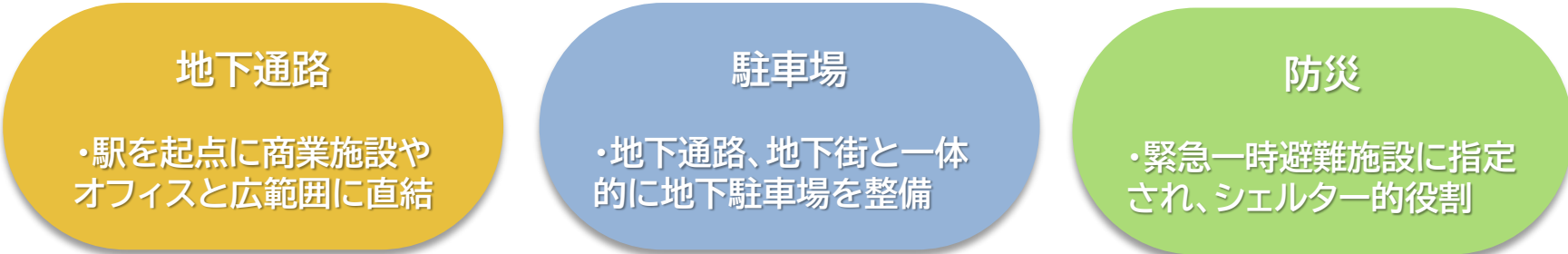


「地下空間を避難場所として活用したイメージ」

※本画像は画像生成AI「exaBace」を使用して作成したもので、実在の人物・場所とは関係ありません。

(3) 地下空間に係る先進事例と想定する導入機能

【共通点まとめ】



※ 先進事例や橋本駅南口の現状(リニア駅設置、交通結節点)を踏まえ、以下の機能を想定

【橋本駅南口に想定する地下空間への導入機能】

想定する地下機能	地下通路	リニア駅、在来線駅を繋ぎ、アンブレラフリーで移動が可能
	駐車場	リニア駅設置により見込まれる需要や リニア利用者のパークアンドライドに対応
	防 災	非常時に防災機能として活用
	目的施設等	駅間通路沿いにイベントスペース等を設け、可変的な利用を行うことで動線に滞留による賑わいや消費が発生

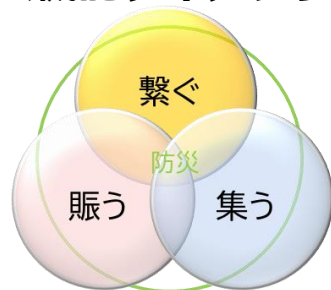
⇒ 地上にある機能について、地下化も検討（一般車乗降場、バスターミナル等）

(4) 地下空間に想定する必要な機能

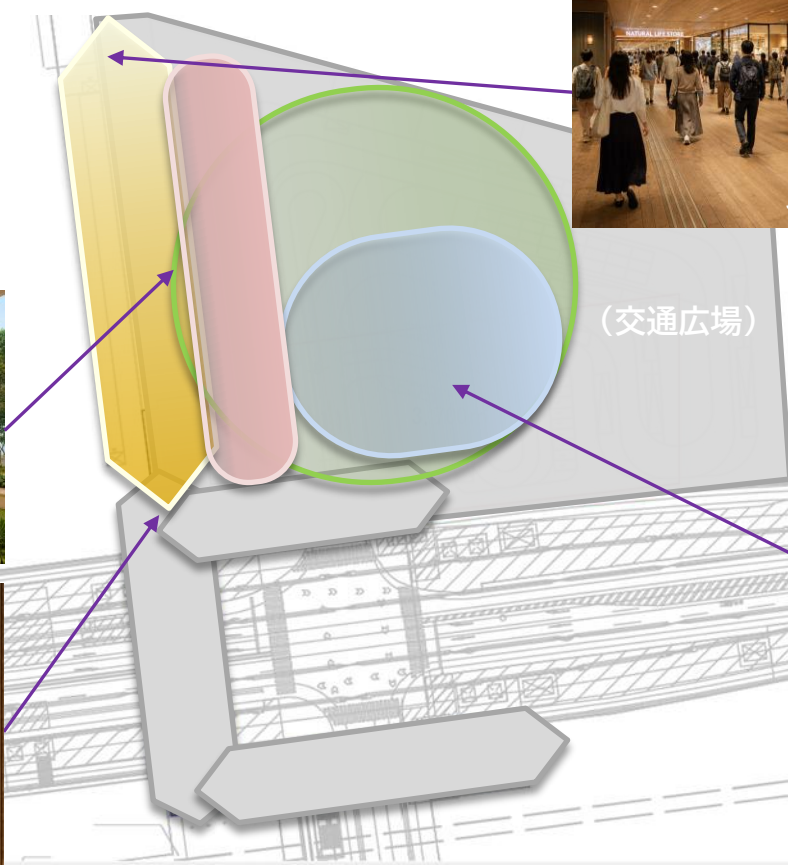
- ・地下通路 … アンブレラフリーで3駅を結ぶ ⇒ (繋ぐ)
- ・駐車場 … 交通広場下にパークアンドライドに対応した駐車場 ⇒ (集う)
- ・目的施設等 … 交通結節機能を活かしたイベントスペース等 ⇒ (賑う)

(防災)

【導入機能ダイアグラム】



【機能イメージ】



※本画像は画像生成AI「exaBace」を使用して作成したもので、実在の人物・場所とは関係ありません。

(5) 地下空間の活用検討に際し整理する事項

○ 事業への影響等

リニア駅工事

先行して進められているリニア駅函体工事への影響

京王駅移設

京王駅移設の工事スケジュールへの影響

土地区画整理事業

土地区画整理事業のスケジュールや事業費への影響

○ 懸念事項

コスト

整備コストの妥当性

○ 組織等

推進体制

市事業として実施する場合に必要な人員の確保※

※JR東海(リニア)やUR(土地区画整理事業)との調整に加え、整備に向けた人員が必要

【令和 9年度】 2名(土木・建築 各1名) 大規模事業評価、基本設計準備・関係者調整

【令和11年度】 4名(土木・建築 各2名) 詳細設計、工事に向けた工程・関係者調整

(6) 現状と課題

【現状】

- ・地下空間の活用については、更なるまちの魅力向上などに資するものと説明してきた。
- ・リニア駅が地下に出来ることを活かし、地下空間を活用することについて 様々な要望・意見等をいただいている。

【課題】

- ・駅前の公共空間の活用について、地下空間を含めたより詳細な検討が必要
- ・地下空間の単独整備事業は、本市では類例がなく、地下空間を含む公共空間の整備に当たって、より詳細な検討を図るためには、専門的、客観的な資料が必要



**交通結節機能と都市機能を兼ね備えた公共空間(地下空間等)として
必要な機能を整理し、適正配置や費用対効果、スケジュールなどの比較検討を行う。**

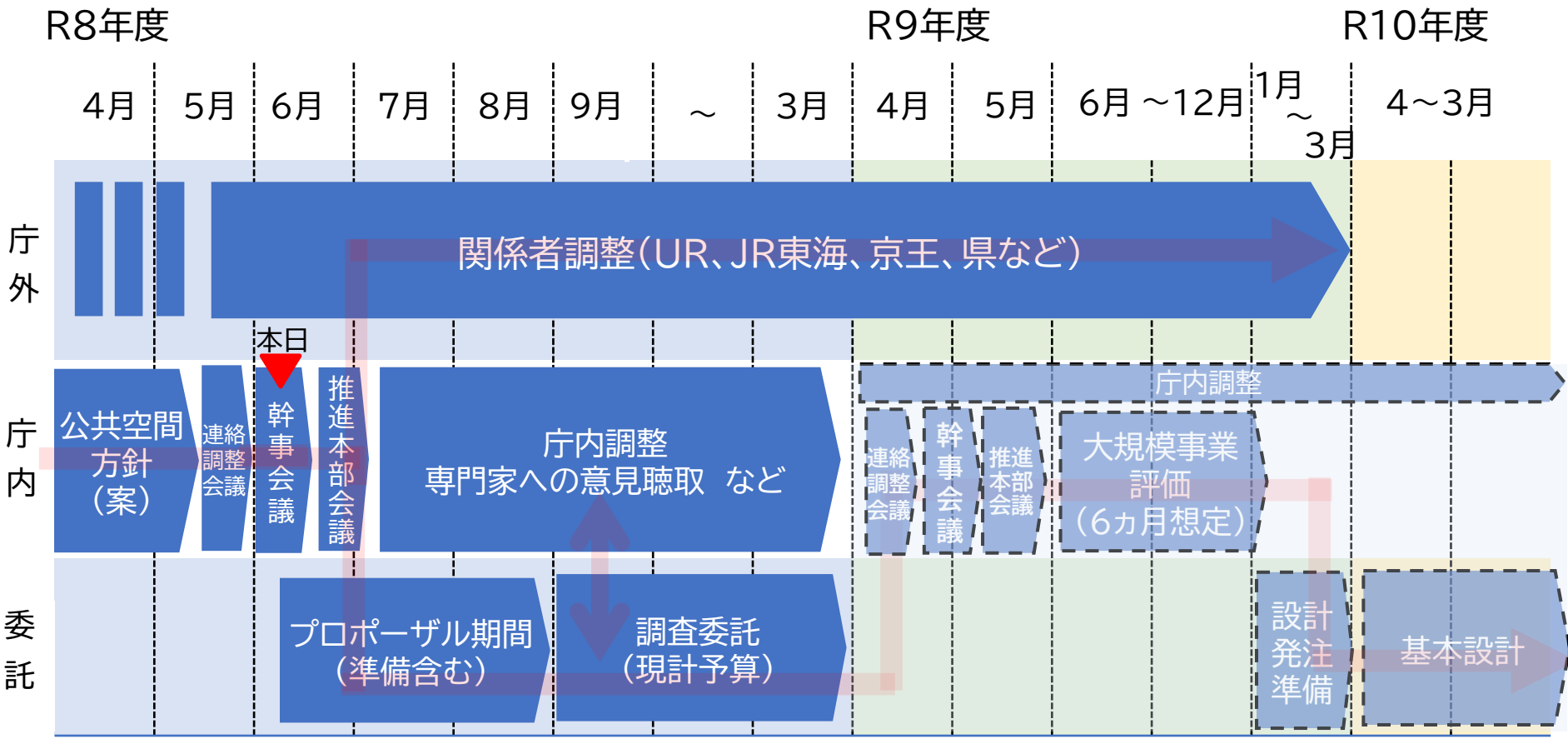
Ⅲ 検討の進め方について

○以下の項目について調査委託し、詳細な検討を行う。
また、財源の確保については、別途検討を行う。

検討項目(案)	内容(案)
先行事例整理	・類似事例の整理 ・法規、基準の整理(整備できる施設に係る法令等、地下空間の管理運営ルールや火災・浸水時の安全基準等の整理)
導入する地下・地上機能	・地下機能の配置検討や地下機能に関連して地上への配置が必要な機能の検討
概算事業費	・配置パターンごとの概算事業費を算出
スケジュール	・配置パターンごとの実施工程の作成、既存スケジュールと整合
他事業等への影響	・リニア駅工事、土地区画整理事業、京王駅概略設計への影響確認 ・計画(ガイドライン等)への影響確認
メリット・デメリット	・地下空間等の活用に係る評価、整備効果
基本配置計画	・パースやイメージ図を作成
広域交流ゾーン等活用	・広域交流ゾーン等を活用した機能の整理
関係者ヒアリング	・地下空間等の活用について各者の意向等を整理

IV 今後のスケジュールについて

【スケジュール（案）】



※令和9年度以降は、実施を想定した場合のスケジュール